

1 学期人権・同和教育特別授業：「LGBTとSOGI」（2年生）

近年「LGBT」という言葉を耳にすることが多くなりました。しかし、この「LGBT」、性の多様な在り方を表現する画期的な概念でしたが、心と体の「性」について、いかに区分するか？という問題に単純化されて認識が矮小化された結果、「少数派」の「特殊」な問題として扱われ、「私は当事者ではないが、差別や偏見にさらされている人たちに同情します」と、どこか他人事として終わってしまう帰来があると思います。性の問題を「区分」の問題に矮小化せず、自己の「性的指向」・「性自認」の問題として把握しなおすことで、すべての人々にかかわる重要な問題なのだということが理解できると思います。このことを最近では「SOGI（ソギ or ソジ）」としてLGBTに代る新たな概念として用いることも増えてきました。SOGIのSOとは「Sexual Orientation（性的指向）」のことで、GIとは「Gender Identity（性自認）」を表しています。誰しも他者と自己とを比較するとき、そこに違和感や劣等感（その反動としての優越感）を多少なりとも感じて悩んだりしたことがあるのではないのでしょうか。「他者と異なる自分」の悩みはすべての人が当事者なのです。

性的志向
 同性を強く意識
 自己の性の性に強い違和感
 相手の性を意識しない
 自己の性を意識しない
 異性を強く意識

性自認
 自己の性の性に肯定的
 好女子
 好男子

Q **G** **L** **T** **B**

こんな経験ありませんか？

どうしてちゃんと出来ないのかなあ…

どうして友達みたいに出来ないの？

どうして普通に出来ないの？

みんなはちゃんとやってるじゃない!!

ほくほふつうじゃないのかなあ…

ほくほダメな人間なのかなあ…

●LGBTの問題は「少数の」「かわいそうな人たち」の問題ではありません！

LGBTの人たちを守ろう

私たちがSOGIを守ろう

●日本の社会には「家意識」や「家父長権」や「世間体」や「一般常識」などさまざまな「同調圧力」が存在します。

●「自分らしさ」を大切に、誰かの「自分らしさ」も個性として尊重し合う、そんな社会が到来することを願ってやみません

●誰もが「他者と異なる自分」で悩んでいるということを感じ取り、理解して寄り添うことがSOGIの観点なのです！

★研修から学んだこと・感想・・・

- 授業の中での男性脳・女性脳診断で、私の周りの人は自分の「性」がしっかりと表れていたけど、私は10：11と微妙な結果となった。以前見た「窮鼠はチーズの夢を見る」という映画を思い出し、当時はあまり意識しなかったが、「Q」の男性と「G」の男性の結構生々しい物語だったが、いま改めて考えるとすごく純愛というか、まっすぐな愛の形で思わず感情移入してしまったことを思い出した。
- 自分は「当事者」ではないと勝手に思い込んでいたが、話を聞いてすべての人たちが「当事者」であることを知った。また性別は2つだけではなく、様々な種類のものがあるということを知り、自分でももっと深く調べてみたくなった。自分は女だが、脳診断では男性要素が結構あって、先生がすべての回答がどちらかに限られる人はおらず、完全な男性も女性もないのだということが理解できた。
- 今でも女の子が人形を好きなのが当たり前で、男の子は仮面ライダーが好きなのが当たり前みたいな感じがあるので、そういうものもなくなって行けばいいなと思います。ドラマやアニメでも無意識のうちにそういう風に扱ってしまっているの、私はそうしないように気を付けたいです。男の子が人形を好きでも、女の子が仮面ライダーを好きでも、どっちでもいいといわれる社会になればいいなと思います。
- 最近「性同一性障害」という言葉をテレビなどでよく聞きます。先日見た「グレーテストショーマン」という映画でも出てきました。男はこうだ！女はこうだ！といった偏った見方を捨てて、その人たちを受け入れることのできる環境、もしくは自分がそうだと自覚したときに受け入れてもらえることのできる環境を作っていく必要があると感じました。